

# 社会福祉法人制度改正による新役員紹介

役職名	氏名	住所	役員の資格等				左記「役員の資格等」に該当する具体的な内容 現在又は以前の主な勤務先及び役職 他に役員を兼務している法人名及び役職
			知識 経験	地域 福祉関係	施設長	その他	
理事長	高原 敏夫	千葉県柏市	○				社会福祉法人マザアス理事長
理事	衣川 輝夫	東京都府中市	○				社会福祉法人マザアス常務理事
理事	千先 勉	東京都あきる野市				○	牧師
理事	松澤 雅子	東京都清瀬市			○		マザアス東久留米施設長
理事	古谷 晋	東京都八王子市			○		マザアス日野施設長
理事	石原 正弘	東京都立川市				○	ミサワホーム株式会社
監事	吉田 剛	東京都東久留米市	○				吉田税務会計事務所
監事	我謝 悟	東京都東久留米市		○			シャローム東久留米施設長
評議員	児玉 桂子	東京都練馬区	○				日本社会事業大学名誉教授
評議員	矢谷 令子	東京都東久留米市	○				一般財団法人日本リハビリテーション振興会理事
評議員	上田 健	神奈川県横浜市		○			社会福祉法人三育会理事長
評議員	古賀 誉章	東京都北区	○				宇都宮大学地域デザイン科学部准教授
評議員	細谷 祥子	東京都東久留米市				○	都議会議員
評議員	鈴木 純子	東京都新宿区	○				明治学院大学キリスト教研究所協力研究員
評議員	村本 英那	東京都東村山市		○			特別養護老人ホームシャローム横浜施設長

## 老健局長来訪

8月22日厚労省の濱谷老健局長他5名の方々がマザアス東久留米の特養を「幹部視察」ということでお見えになりました。視察の目的はマザアス東久留米が創設以来積極的に取り組んできた「看取り介護」の実態を把握することにあつたようです。理事長挨拶の後約1時間半にわたり、質疑応答、特養の現場を視察されお帰りになりました。(常務理事：衣川)

## 韓国「平安の家」から来日



国際交流の一環として  
9月17日(日)～20日まで  
4日間来日。  
いつもながらの楽しい有意義  
なときを持ちました。

## 編集後記

寒い冬が近づいてきました。わたくしにとって冬はとても苦手な季節の一つです。雪国で育ったものとはとても思えませんが、物心ついたときから寒がりでした。家の作りが悪かったせいもあるかもしれませんが。冬になると割れた窓ガラスの隙間から雪が舞い込み、朝、布団にうっすらと雪が積もっていたのを思い出します。その雪が溶けなくて残っているというほど部屋も寒かったのを覚えています。床から風が吹き上げる板の間で、座ってご飯を食べていました。それでも、子供ながらに冬の遊びはしましたが、手がかじかんでいたのを思い出します。みなさま、お風邪召しませんよう、この冬を乗り切っていくことを願っています。(草野)

ひだまり No.81 発行責任者：高原敏夫 発行元：社会福祉法人マザアス 〒203-0004 東京都東久留米市米川台二丁目5番7号 TEL. 042-477-7261 FAX. 042-477-7500 http://www.moth.or.jp

# ひだまり



MOTHERTH NURSINGHOME FOR THE AGED

## アシステッドリビング

理事長 高原敏夫



「愛恵福祉支援財団」2017年度、アメリカ研修でオレゴン州のポートランド州立大学へ9月24日から30日まで随行で行ってきた。研修内容は大学での講義と施設見学であった。この研修に参加する前にアトールカワデ「死すべき定め」一死にゆく人になにができるかーを読んだことは高齢者ケアを考えるにあたって、非常に参考になった本であった。著者はハーバード大学医学部を卒業し同大学教授で2010年に「タイム」誌で「世界でもっとも影響力ある100人」に選出されている。本文の一部を紹介してみたい。

ウエストバージニア州に炭鉱労働者の父と家政婦の母、本好きの少女ウイルソンは小学生のとき父親を亡くし、19歳のとき母親が重い脳卒中になった。ウイルソンは大学生になったばかりで、大学の近くのナーシングホームに母親を入所させた。

「家に帰らせて」「ここから出してよ」。母親は何度も何度も言った。ナーシングホームを何か所か転々とした。「ウイルソンにとってよいと思える施設はたった一つもなかった。彼女は高齢者に対する政策に興味を持つようになった。大学卒業後、ワシントン州で高齢者サービスを行っている会社に就職した・・・この間に彼女は結婚し・・・オレゴンにあるポートランド州立大学博士課程に入学した。母親が「私のような人々を助けるためにあなたが何かしたらどう？」ウイルソンはこの質問で自分の人生が変わったという」

「母のビジョンはシンプルだった」その幾つかをあげると、「小さな台所と洗面所を備えたささやか場所を望んでいた。・・・できないことには手伝ってくれる人がいる。部屋には内鍵をかけることができ、室温は自分で調節でき、自分で買った家具を置ける。・・・望むときはいつでもプライバシーを保つことができ、誰かが母に無理に服をさせたり、好きでもない活動にいかせたりすることもない。母はもう一度ジェシーという人間にもどりたいたのだ。ベッドに横たわる患者としてではなく、アパートで普通に暮らす人間に。

研究すればするほど母親が望んだことはナーシングホームでは何一つ実現できないことが明確になった。・・・ケアの方が虚弱な高齢者をコントロールしてしまうのではなく、高齢者自身ができるかぎり自分で自分のケアをコントロールできるようにする代替案を論文にまとめることを、ウイルソンは決心した」

彼女の発想のキーワードは「家」だ。ウイルソンは社会学者の夫と新しいタイプの高齢者向け施設の青写真を描きはじめた。1983年、新しい高齢者のための「介護付き生活センター」をポートランドで開業した。「パーク・プレイス」と名づけられた。

「ウイルソンが広めたコンセプトとしての「アシステッドリビング」が目指す目標は、施設化されたと感じさせないことであった」

今や北欧やオーストラリアでも高齢者施設のキーワードは「家」であり「住まい」である。設立経緯をみても、スタッフや経営者の都合からできたものではなく、入居者やその家族の方々の側にたつて組み立てられていることが判る。

「米国アシステッドリビング協会」では、「住宅」と「サポートサービス」「個人への援助」そして「健康管理」を組み込んだ、ADLに介助を要する人々の個別のニーズに対応する特別なものと定義づけている。

アシステッドリビングの歴史は30余年、多くの変遷を経て今もしっかり根をはって生きている様を見ることができた。

我が国の「サービス付き高齢者住宅」に類似しているもので、有料老人ホームでコンセプトをとりこんでいる多くの業者が散見されているが、ウイルソンの目指した理念は、大切にしたいものである。



## マザアス日野の地域における公益的な活動/社会貢献活動

社会福祉法人の価値や役割が問われる中、マザアスでは従来から介護保険事業のみではなく、地域の方とともに、地域で必要とされる活動に取り組み、展開しています。

日野事業所における取組は、78号でもお知らせしておりますが、それら活動の経過について数字を交えたご報告と、その他の取り組みについて今号でご報告をさせていただきます。

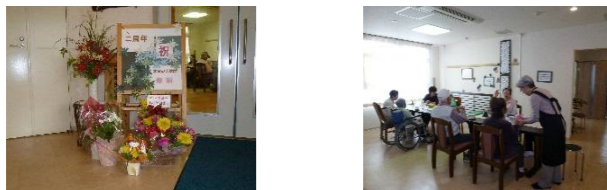
### ①あったカフェ (認知症カフェ)



いつも温かくボランティアさんが迎えてくれます

この9月で開店2周年を迎えました。認知症になっても安心して暮らせる地域づくりが目標です。水曜日の開店に合わせて毎週足を運んで下さる常連さんもおっしゃいます。

来店者数は、2年間で延べ4000名以上にも上ります。今年度は、1日当たり平均で40~50名の方にお越しいただき、時間帯によっては満席で、席が足りなくなることもあります。2年間活動を継続している事により、地域の方に居場所として認識して頂きつつあることを実感しています。



二周年記念の日も大盛況でした  
ボランティアさんによって支えられています

開店日には、居宅介護支援事業所に勤務する介護支援専門員を中心とした専門職が常駐し、介護等に関するご相談があった場合等は、他機関や専門職に適切に繋がられるようにしています。しかし、あったカフェ継続のカギは、何と言ってもボランティアさんの存在です。開店から5名のボランティアさんに支えて頂いています。ボランティアさんの存在なしにカフェの継続は成り立ちません。

### ②配食サービス

日野市社会福祉協議会からの委託を受けて実施しています。平成16年から毎日休まず続けています。

市内の配食事業で唯一、糖尿病食、減塩食等の治療食にも対応していること、温かい物を温かいまま召し上がっていただくための対応、極刻み食、ミキサー食といった障がいがあってもおいしく食べてもらうための工夫等もあり、皆様から大変ご好評を頂いています。平成28年度は、延べ18,533食をお届けしました。

今年度は更にご希望が増え、登録者数は100名超、既に1か月平均で1,600食以上をお届けし、昨年度を上回るペースです。配達するのは主にお昼ごはんですが、お昼ごはんは老人ホームに入居されている方、デイサービスに通われている方、勤務している職員と併せると、250食程を調理し



家庭の味とあたたかさを



特製おせち

ています。こちらの配食サービスも熱意あるボランティアさんによって支えられています。配達はもとより、当日の配達担当やルート等のコーディネーターも含め、ボランティアさんに対応して頂いています。今年も、お正月にはマザアス日野の特製おせちを配達する予定です。

### ③認知症を知る月間

日野市では、毎年9月を「認知症を知る月間」として位置づけ、様々なイベントを開催しています。今年度は、78号でもご紹介致しました若年性認知症当事者と家族の集い「芽吹き」の皆さんが、チャリティーコンサートに参加する際のお手伝いを致しました。また、市内の特別養護老人ホームに勤務する栄養士と協働し、お食事困りごと相談コーナーを開設しました。様々な介護食を販売している業者さんにもご協力頂き、来訪された方のお食事に関するご相談を承りました。チャリティーコンサートには、800名以上の方がお越しになり、新聞にも取り上げられました。芽吹きの参加については、NHKの取材も受けていましたので、首都圏にお住まいの方はニュースでご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。



市内特養の栄養士さんとともに

### ④自治会との連携

施設も自治会に加入し、地域の一員としての活動を心掛けています。特に、日野事業所がある地域は、多摩川が近くを流れていることもあり、大雨等の折には浸水被害が懸念されます。そのような状

況もあり、地域には防災や非常災害時の対応について高い意識をお持ちの方が大勢いらっしゃいます。また、日野事業所の周囲には福祉施設が多くあります。そのため、周囲の福祉施設を含めて、防災や非常時の対応について、自治会の方々と少しずつですが検討を始めています。施設が地域の方に対して、どのようにお役にたてるか。また、地域の方には、どのようにご支援を頂きたいか。相互に協力できる関係の構築を目指しています。

また、8月に開催された自治会のお祭りでは、マザアスとしてチュロスのお店を出してもらいました。お祭りには、自治会地域の40%に当たる方の参加があったそうで、大変盛況でした。用意した200食はあっという間に完売でした。



チュロスのお店を出しました

### ⑤市内社会福祉法人間の連携

日野市社会福祉協議会を事務局として、市内社会福祉法人ネットワークの構築を進めています。市内にある社会福祉法人が、行政とも協働しながら地域のお役に立てるような活動をしていこう、という趣旨で立ち上がりました。未だ動き始めたばかりなので、今後の活動に期待して頂きたい。先日は、活動の一環として、日野市社会福祉協議会が主催する、運動会のサポートを行いました。

継続的な活動、新たな取り組み、様々なことをこれからも実践することで、地域の皆様に必要とされる事業所になりたいと考えております。

(マザアス日野 施設長 古谷晋)